

ちょっと意外な

怖い本

カウンターにいてよく聞かれるのが「怖い本ってどれ？」
スリル大好きな皆さんに怖い本を紹介します。ちょっと変化球を
かけて(?)お届けします。

ポッコちゃん/星新一著

ショートショート of the 金文字塔。どれも
すぐ読み終わる短編ですが、読後はか
なりあとを引くものばかり。ザワザワ
します。

おいしいのぼうけん/古田足日・田畑精一作

保育園のお昼寝の時間にさわいだあきらとさとしは、
暗くてこわい押し入れに入られます。
幼いころ特別な場所だった暗闇のこわさと神秘性を
思い出しながら読んでください。

幸福な生活/百田直樹著

平凡な日常にひそむ人間の怖さを感じ
る短編集。ラスト1行で世界がガラッ
と変わる。

ようこそ、我が家へ/池井戸潤著

駅のホームでの割り込みを注意した会社
員・倉田。その日から家庭では嫌がらせの連
発、会社では窮地に追い込まれる。

もしあなたが倉田だったら…。現実に起こ
りうる出来事に、恐怖を感じ、現代社会の問題
をも考えさせられる作品。

怖い絵/中野京子著

たとえばドガの人気作「エトワール、ま
たは舞台の踊り子」。舞台上踊るバレリー
ナの構図に斬新さを感じるが、当時の時代
背景を知ることによって絵の持つ恐ろしさが湧き
上がってくる。絵画鑑賞法を案内するヒッ
ト作。

おぞましい二人/エドワード・ゴーリー著・柴田元幸訳

子どもを誘拐しては殺してしまう忌まわしいカップル
の話。ゴーリーが「どうしても描かずにはいられなかつた」
という、実際に起こった事件を描いた絵本。この二人を「お
ぞましい」と切り捨てることのできない後味の悪さが、心
の中に残ります。

エンジェルフライト/佐々淳子著

海を越えてご遺体を遺族のもとへ送り届けるの
が国際霊柩送還士の仕事。彼らの職務と日々の思
いを綴った作品。

遺体と向き合う中で、決して穏やかな状況では
ない彼らの胸の内を知った時、直視できないよう
な描写の向こうに尊敬に値する神々しさすら感じ
る。

生命と食/福岡伸一著

食の安全、生命維持に不可欠な「食べる」という行為を
生物学的な視点から述べています。食に対する危険をいた
ずらに煽るのではなく、人間が生物であり、地球の一部で
あることを受け入れる姿勢が大切なようです。

安い食べ物ばかりを買うことが怖くなり、そんな行動を
見直すきっかけになるかもしれません。

注文の多い料理店/宮沢賢治著

多くの人を読んだことある宮沢賢治の作
品。ひたひたとしのびよる恐怖は、あらず
じを知っていても怖いと思いませんか？

Nのために/湊かなえ著

ドラマの原作本です。ミステリー
ですが、登場人物それぞれのエビ
ソードもとても良いです。ドラマを
見た人もぜひ読んでみてください。

(2年 女子)

人間椅子/江戸川乱歩著

私の好きな作家のホラーです。文豪と
聞くと、難しい言葉を使っていて、読み
づらい作品を書いているというイメージ
を持っていました。でも、読んでみると
ストーリーにどんどん引き込まれました。

(2年 女子)

図書委員と常連さん
のおすすめ本Vol.4
怖い本編